

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第10回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成22年4月23日(金) 午後3時02分～午後3時44分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	生越詔二、福田純子、久能正吾、佐野純夫、相田真人、小林昭文、鈴木芽吹（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	小坂橋悦子 指導主事

1 はじめに

事務局

本年度、事務局で担当させていただき、指導主事の小坂橋です。本日はメンバーも替わったので、それぞれ自己紹介していきたい。

本日の一番大きな目的は次回の部会の日程を決めること。できれば6月の3回目の部会まで決めたい。

アドバイザー

昨年に引き続きということで、練馬区の子どもたちの実態を踏まえ、指導資料として有効なものができるよう、私もできる立場からご協力したい。

最初に申し上げたい。私もだいぶ現場から遠ざかっていると痛感させられた。つい最近ある大学の付属小学校の教員が、7年ぶりに小学校の1年生を担当し、7年前との違いに大変驚いているという話が出た。子どもの心が、親の心からものすごく影響を受けているのは当然だが、子どもが変わっているということは親の意識が変わっていると実感した。

委員

旭町小学校の校長の委員です。資料作成といっても道徳として考えるような資料でもなく、やはり小中一貫の中でどういうことなのかとイメージを模索している。そういう点では皆様に追いつけるところまで頑張らなければと思っています。

委員

高松小学校の副校長の久能です。昨年に引き続き2年目。昨年は校務の関係で全部出席することができず、一番大事なまとめの時期にご迷惑をかけてしまった。今年は、全9回出席して、しっかり役に立つよう頑張りたい。

昨年度ほとんどお世話になっていた一ノ瀬先生がいらっしゃらないので、責任を持って取り組んでいかなければいけない。会の資料を一貫校の子どもたち、また教職員の皆さんに役立つものにしていけたら。

委員

中村中学校の副校長の佐野です。なるべく全部参加できるようにしたい。最初に小中一貫と

言われて、小学校と中学校でとただ簡単に思っていた。この9回でどれだけ力になれるか心配だが頑張っていきたい。

委員

下石神井小学校の鈴木芽吹です。先生方から教えていただいて私も勉強していきたい。

委員

大泉北中学校の小林です。昨年度に引き続いて。

昨年1年間理念の話をさせていただき、やはりやればやるほど難しい、端的に言うと小学校と中学校の教員が持っているイメージがうまく重なっていない。その辺が一番ネック。あと10月までに原稿を作るということで、時間がない。それをどういうふうに整合性を持たせるのかがポイントかと思っている。

去年の部会で課題だと思っているのは、桜小学校と桜中学校でいろいろな準備会合をやっているはずなのにその辺のことが、よく伝わらない。私たちは、来年度新しい一貫校でどういう形で授業をやるのか、全く知らない。例えば教科担任制はどこからやるのかとか、最新の情報をまず教えていただきたい。それを受けて具体的にカリキュラムを考えたり教材を作っていくと、全く使いものにならないものを作ってしまう。作るからにはちょっと面白いものになればいいと思っている。

委員

豊浜中学校の相田です。道徳の授業をやって「楽しかった」と言われるのを楽しみにしている。道徳を一生懸命やると同僚から嫌がられる。どうしてか考えてみると、道徳の授業はものすごく難しいので、お説教の時間でずっときてしまっている。せっかく小中一貫校のことをやっているのに、自分の学校、そして中学校の道徳教育を同時に変えながら、ここで勉強したことも自分の学校に生かしながら、僕の今の野望は自分の中学校3年間の35時間×3の指導案を作りたい。

2 今後について

事務局

今日欠席の北町の山崎先生、大泉学園桜小学校の濱元先生も部会の部員です。

それでは、年間の活動計画、今日が第1回目の部会になる。第2回から8回を9月の間に実施し、10月に第9回目という運び。まずは5月の2回目の予定を考えたい。

今年度主にやっていただくのは、昨年度の中間報告書にまとめていただいた部分。「心の教育の推進」指導プラン例の最初の理論の部分と、指導プラン例の中の「この欄については、次年度検討する」というところを検討していく。

それから先ほど全体の説明であった指導事例。全部の時間は難しいが、学習指導案ということで指導事例案のようなものを作成していくことになる。特に本部会では重点的に取り扱う5項目を昨年度まとめているので、この辺りを元に学年ごと、またはⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期で、ある程度しぼって示していく形になるかと思う。

それを第2回から第8回の間にとまとめ、10月が原稿の締め切りになっているので、具体的

に話し合いを進めながら、分担を決め実際の作業を進めていく。

第2回目の日程は、検討の結果、5月17日月曜日。3回目が、6月7日月曜日、時間はいずれも16時から。この後については、5月17日に集まった時に決めていく。

それでは作成分担だが、五つの重点項目ごとに作っていくのか、それぞれの学年ごとに作っていくのか。これを検討しないとなかなかうまくまとまっていけない。合わせてこの表の、今年度作ることになっていた辺りを完成させる。

この後、校長先生と生越先生と事務局で相談させていただき、ある程度の方向性を次回お示しできるようにしたい。そこで分担を決めて実際の作成に入っていく形で進めたい。

アドバイザー

もう終わるような流れだが、目標値がはっきりしないとモチベーションが高まらない。

枠組みだけ決めたほうがいい。この部会のページ数は70ページ。70ページで重点項目に漏れ落ちがあつては困る。小・中と分けるよりもⅠ・Ⅱ・Ⅲ期になっている。そうすると70ページを5項目で割って一つに14ページあり、平均的にばら撒くと何単位分できるか。ここで白い部分と実際のもので載る部分が一覧表みたいに出てくると、非常にイメージしやすい。

その時になぜここをこうしたのか、証明できる論理ではなくても主張の論理が通っていればいい。すると大体どのぐらいというのが、分量的にイメージができるのではないか。せっかく集まっているから共通化するほうがいい。

事務局

そうすると1項目につき、およそ14ページ。多少増減があつてもかまわない。今回、小中一貫では分け方をⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期としているので、その中の割り振りを決めていく。

アドバイザー

そうすると、余計なところに時間かけなくてもすむのではないか。

前年度は本質論が中心で、ありとあらゆることが出てきて収束がつかなかった。今回は目標値がはっきりし、それに基づいてある程度イメージがはっきりしているので、形式論理に当てはめてイメージを図りたい。

委員

今年初めてお2人加わり、きっと何も分からない状態。この後打ち合わせしに残っている時間を少しいただけるなら、2人に昨年度の情報交換をする。いっぺんにお話できない。小中の壁はなかなか渡れない。そこを一步乗り越えていくためにも話をさせてもらうのはどうか。

アドバイザー

今の先生の意見も含めてだが、一貫校のカリキュラムを成文原稿でなく白表紙でもいいから12月に配布したい、そして他の学校には2月を目途にという話があった。この一貫校におけるカリキュラム、心の教育部会の具体的な案と、全校に配る中身は同じ。一貫校に年内に配りたいのは何か意図があるのか。

事務局

23年度に一貫校が開校するので、教育課程を編成する作業に年内から入っていく。年内にある程度のものがあったほうが年間予定、教育課程を組みやすい。今は桜小、桜中に小学校、中学校の教育課程をそれぞれ提出してもらっているが、来年度は小学校と中学校一緒に小中一貫校としての教育課程のカリキュラムを提出していただく必要があるので、ある程度共通のイメージを持って進めていかないと、4月にスタートした時に先生方もきついと思う。

アドバイザー

そうすると一貫校のカリキュラムというイメージを強くしながら作ればいいのか、そこでⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期が出てくればいいのか。桜小中が叩き台になるかもしれないが、資料として出されたものを元に、教育課程をⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期で編成するというイメージ。

事務局

他の学校ではまだそこまではいかない。他の学校については小中連携教育ということで、その辺りに参考になるようになっている。

アドバイザー

くどいようだが、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期のものが少なくとも漏れ落ちなく1個ぐらいあればということ。

委員

次年度はもう新しい小中一貫校がスタートするが、今の桜小と桜中の先生がそのまま合体して新しい学校になる予定で進んでいるのか。

事務局

もちろん異動等あるが、イメージとしてはそう。

新しい学校について、例えば教員が専属になるとか、単位制になるとかは、公表するところまでまだ決定していない。それは検討委員会が何回か開かれるので、年内にはなんとかわかるのでは。

委員

こちらとしては、その辺が未定でカリキュラムを作らなければいけない。このメンバーの中では濱元先生が桜小なので、最新事情を一番つかんでいることになるのか。

事務局

あとは検討委員会の事務局、新しい学校づくり推進課から提供される資料になる。

委員

私が端的に教えてほしいのは、例えば今桜小が心の教育でどんな問題を抱えているのか。桜中については、なかなか生活指導でうまくいかない部分もあるので、その辺何が課題だと思っ

ているのか。そういう何らかのペーパーなりは出てこないのか。

事務局

濱元先生にお願いして、お話しいただけるところまでご用意いただくことは可能かと思う。

委員

生越先生がこの中で、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期、ある程度ポイントで具体的な指導資料を用意すればいいと考えてくださるのではと期待している。去年も出たが、小1プロブレムの解消の問題が一つ。あともう一つは6・3制の中1のところ。

Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期それぞれで、その辺を具体的に狙い撃ちしていく。私たちはこの五つ全部大事だと思って立てたが、個人的に、この辺を重点としたほうが良いと重みづけしたほうが良いものもある。それで選ぶと、自然にこの辺のものを作ろうとなっていくのでは。

事務局

一つ紹介で、小中一貫の資料作成委員会で予算を持ち、小学校1年生から中学校3年生までの『社会性を育てるスキル教育—総合・特活・道徳で行う年間カリキュラムと指導案』という資料を購入した。今後も予算的に資料等購入することができるので、要望があったらお寄せいただければ、こちらで検討して購入していきたい。

それでは心の教育の推進部会はここで終了させていただきます。次回またよろしく申し上げます。